利尻研究　13 (1994)：35-48.

マオヤニ郷土誌（その３）

工藤浄真
利尻郷土史研究会会長
（〒097－03　北海道利尻郡利尻町仙法志字本町）

Maoyani Local ahistory　(3)

Jyoushin KUDOU
The president of Rishiri Local History Society
(Senhoshi, Rishiri-cho, Hokkaido, Japan 097-03)

(3) 文化関係団体

(イ) 仙法志書道サークル

このサークルは昭和46年４月１日に発足した。会長上木律子、副会長茶谷みよ、事務局長三浦尚雄で事務局を仙法志中学校に置き、16名の会員で活動を開始した。毎月一回中学生11名を含めて公民館で教室を開設した。もとは「仙法志婦人学級書道クラブ」として発足したものである。事務局長が転出してからは昭和50年代に砂田京子氏がクラブを引き継いだ。その後、母胎である婦人会が弱体化したために、クラブが独立し現在の書道サークルになったものである。現在の責任者、指導者は砂田京子氏で、公民館を活動の場とし、会員８名で継続している。

(ロ) 仙法志俳句会

明治41年11月３日「仙法志好風会」の名において「本会は百回記念として広く俳句を募集す」とある。会員には池田、小野、河東田、多田、園家、辻、鈴木氏等の名が出ている。マオヤニ住民を中心に、明治41年より以前にすでに俳句活動が開かれていた事実がある。以後、大正、昭和前半まで句会活動があったと考えられるが資料が乏しく不明である。昭和47年１月にはすでに「ともしび句会」があった。これは婦人会内にサークル活動があり、毎月一回句会が開かれていた。

この句会は昭和48年４月に教育委員会主催の俳句教室としてしばらく行われたが、昭和50年４月からは仙法志俳句会として独自に活動を始めた。会長は工藤浄真氏が就任している。

(ハ) 利尻郷土史研究会

利尻郷土史研究会は昭和55年に工藤浄真・西谷栄治両氏が郷土史に関心をもっている人々に呼びかけ、「利尻の歴史を語る会」として発足した。事務局を西谷氏が担当し、名称を利尻郷土史研究会に変更し、月例会、会津藩士供養祭、利尻郷土研究の発行、町民文化祭文化展示会への参加などの活動を行っている。会員は８名で、会長は工藤浄真氏が発足当時から就任している。

(4) 体育関係団体

(イ) 仙法志体育協会

昭和24年に仙場グランドの第二期工事が行われた際に仙法志体育協会が「創設」されたようである。仙法志地区の全戸をもって会員とし会費を徴収し運営費とした。役員構成は会長１、副会長１、常任理事８と各自治会から選出される理事各４名であった。事務局は発足当時は仙法志漁業協同組合が担当していたが、その後仙法志中学校、仙法志郵便局を経て現在は仙法志支所が受け持っている。

体育協会には陸上部、野球部、水上部、保健部、柔道部、剣道部、スキー部、スケート部があり、初期の頃は各種目毎に大会は盛況であったが、現在はほとんどが衰退し定期的な大会は行われていない。

会長は井田鹿之助、石倉寅夫、岡山勇、三浦尚雄、工藤浄真の各氏がそれぞれつとめた。

(ロ) 仙法志剣道スポーツ少年団

明治38年に仙法志に渡った旧仙台藩支藩の亘理

藩士で小野派一統流の指南であった須藤弥七氏が剣道を広めたが、仙法志における剣道の発祥である。爾来、大正・昭和と盛況を極め優秀な剣士を排出したのが、現在は須藤氏から直接指南を受けた弟子は生存していない。戦後一時中断していた剣道は、昭和28年に再興されたが育成の主眼はそれまでの青年層から小中学生を対象としたものに変わった。ついで社会教育の整備の一環から仙法志剣道スポーツ少年団として生まれ変わった。檜山義勝、山元喜代治、後藤、小中俊男氏等の指導者に恵まれ各種大会でも優秀な成績をおさめていたが指導者不足や生徒数の減少などにより、昭和55年頃に消滅してしまった。

(ハ) 野球スポーツ少年団

昭和50年、日曜学校に野球部が設置されたのが仙法志地区での野球少年団始まりである。

その後、仙法志野球スポーツ少年団として整備され指導は過去には長谷川昌央、宮道義之、小中俊男氏等があたり現在は工藤玲、宮道信之氏らが行っている。本少年団からは利尻高校野球部員をたくさん排出しており、高野連名寄地区大会での活躍につながっている。現在は週二回練習を行っているが、生徒数の減少により団員は13名と少なく、また女子の入団もあらわれてきた。

(ニ) 卓球スポーツ少年団

野球スポーツ少年団結成後まもな卓球スポーツ少年団が結成された。主として女子が多い。大会や試合などはほとんどないが、週二回の練習を続けている。指導には工藤玲氏があたっている。

14. その他の団体

昭和30年代に入って車が普及したことにより、「仙法志交通安全協会」が交通安全の思想、啓発活動を目標として組織された。

初代会長には原崎竹治氏が就任し、岡山勇氏、昭和38年頃から石倉寅夫氏が引き継ぎ、事務局には仙法志郵便局の石垣純一氏が約20年間続いている。会員数は260名。

15. 福祉関係団体

(1) 仙法志慰霊奉賛会

仙法志地区出身者の戦没者の霊を供養し奉賛することを目的として、仙法志地区の全戸をもって組織している。仙法志体育協会と相互に協力しあい招魂祭、地区の年中行事として最大であった健民運動会等を行っていた。会員数は230戸、会長は中川原智三氏が就任し、事務局は仙法志支所が担当している。

(2) 仙法志遺族会

現在の会員数は9名であり、年々減少している戦後約50年を経た今日、会員の意識も希薄化しているため、主だった活動はない。

(3) 仙寿会

仙法志地区の70才以上の老人で組織している老人クラブで、昭和45年頃に結成された。集いの場として「寿の家」があったが、利尻町公民館の建設に伴い、集会場所が公民館に併置された。現在の会員は52名である。

16. 教育機関及び関係団体

(1) 仙法志小学校

明治22年に現在の元村山ノ上に西本願寺派の僧、大嶋大丞氏が寺小屋式の教授を始めたのがその起源である。明治26年10月に利尻小学校分校となり当初の児童数は24名であった。

明治29年4月、仙法志小学校として独立認可され修業年限4ケ年、児童数58名で再出発した。

明治30年に久連分校を置き、現在地に新校舎を新築し幾多の増改築を重ね、現校舎は昭和48年12月に落成した。卒業回数は98回を数え、卒業生は3,749名を輩出し、平成4年9月26日に創立百周年記念式を挙行した。

昭和12年には児童在籍数が500名を越えたが、典型的な過疎化の波にさらされて現在は児童数30名前後となっている。

公民館設置にいたる昭和40年までは、経済文化教育の各機関団体の活動の場を提供してきたもので、地域社会での重要な役割を分担してきた。歴代校長は表1の通りである。

仙法志小学校保護者会は明治時代には設立はなく、大正4年1月に発足している。現在のＰＴＡとは全く性格の異なるもので、その活動内容は「協力援助」を目的としたものである。

保護者会の資料がなく、歴代の会長は明らかではないが、第二代会長には石倉良二氏が昭和2年6月から就任していたことがわかっている。仙法志小学校の歴代ＰＴＡ会長は表2の通りである。

(2) 仙法志中学校

昭和22年5月から新学制発足によって仙法志中学校が誕生した。当時は小学校講堂を間借りし、次いで、小学校校舎全面西側に接して3教室のみ増築併設し、授業を実施した。

昭和27年11月、独立校舎を現在地に竣工し、屋内運動場は小学校講堂を解体移転してこれに充てた、それまでは併置校であった。

初代	石丸　官三	明治32年６月～
２代	瀬藤　貞治	明治36年８月～
３代	上野常三郎	明治40年５月～
４代	後藤　徳治	大正５年４月～
５代	阿部　藤吉	大正９年７月～
６代	十倉　　郁	大正12年５月～
７代	近藤　　宏	大正14年９月～
８代	対馬　栄六	昭和４年８月～
９代	湯浅　定平	昭和７年11月～
10代	支部　純一	昭和13年３月～
11代	竹村　海陸	昭和16年11月～
12代	塚越　一太	昭和19年６月～
13代	峨家　　実	昭和21年９月～
14代	中村　　浩	昭和26年５月～
15代	佐藤　光吉	昭和32年10月～
16代	古川　善行	昭和37年５月～
17代	能登　礼文	昭和43年４月～
18代	後藤　廣作	昭和47年４月～
19代	中山　至孝	昭和53年４月～
20代	枡田　行雄	昭和58年４月～
21代	伊東　重治	昭和60年４月～
22代	本間　清一	昭和63年４月～
23代	山本　尚男	平成２年４月～
24代	田村　　一	平成５年４月～

表1　仙法志小学校歴代学校長

初代	砂田弥一郎	昭和22年４月～
２代	井田鹿之助	昭和25年６月～
４代	中川原智三	昭和38年５月～
５代	野本　昭二	昭和50年３月～
７代	石垣　純一	昭和58年５月～
９代	小中　俊男	平成元年５月～

表2　仙法志小学校歴代PTA会長

初代	石津良治郎	昭和22年４月～
２代	峨家　　実	昭和23年11月～
３代	中村　　浩	昭和26年５月～
４代	武田　豊作	昭和29年５月～
５代	小林滝二郎	昭和31年４月～
６代	安斉　精輔	昭和39年４月～
７代	三浦　尚雄	昭和45年４月～
８代	正部川晃巳	昭和51年４月～
９代	広岡　令夫	昭和56年４月～
10代	堀川　七郎	昭和60年４月～
11代	平野　　繁	平成元年４月～
12代	戸沼　恭二	平成４年４月～

表3　仙法志中学校歴代学校長

さらに、創立30周年にあたる昭和25年に鉄筋コンクリート二階建ての校舎を新築し、翌53年９月創立30周年記念行事を執行した。卒業回数47回を数え、卒業生は1,600名に達している。

在籍生徒数のピークは昭和30年代の180名程であったが次第に減少し、現在は30名に過ぎない。歴代校長は表３の通りである。

また、歴代のＰＴＡ会長は表４の通りである。２代会長の年代までは小中学校同一のＰＴＡで運営され、正会員、賛助会員の二部であったものを現状のＰＴＡ組織に組み替えした。９代会長寺田氏（平成３年４月～）を除き本町出身者である。

初代	砂田弥一郎	昭和22年７月～
２代	井田鹿之助	昭和26年４月～
３代	砂田弥二郎	昭和34年４月～
４代	沢田　末松	昭和36年４月～
５代	武田　芳親	昭和38年６月～
６代	岡山　　勇	昭和40年４月～
７代	工藤　浄真	昭和48年４月～
８代	宮道　義之	昭和60年４月～
10代	米脇　　博	平成５年４月～

表4　仙法志中学校歴代PTA会長

(3) 利尻町公民館

公民館は社会教育施設として昭和40年11月に現在消防コミュニティーセンターが建てられている場所に設置された。次いで、昭和63年11月に利尻町役場仙法志支所と併置し、現在地に新築移転した。本町内の諸団体、各機関及び町民各層の社会教育活動の場として開放され活用されている。また、仙法志体育協会、野球少年団、卓球少年団等の事務局も置かれている。

(4) 町民屋内運動場

この屋内運動場は昭和49年11月に旧公民館に隣接して北側に建設された。これが、現在地の本町82番地である。町民の社会体育活動の場として設けられた、仙法志地区唯一のスポーツセンターである。一時町民集会の場としての機能を備え利用されたこともあった。

(5) ふれあい広場

これは昭和59年10月に道々青柳橋の東側の浜に面して、以前からのスケートリンクと、夏期間の老人と児童との「ふれあいの場」(主にグランドゴルフ）として造成された。

その起源は、昭和40年１月に児童及び生徒の冬期間スポーツを奨励して仙法志体育協会が主催し小中学校ＰＴＡが協力し仙法志小学校校舎西側に

スケートリンクを造ったことにある。
何回かの変遷を経て同協会が運営維持困難となり、町教育委員会に委譲されたものである。

(6) 仙陽グランド
体育の重要性と各種協議会の競技場の狭隘から多年にわたる課題であった。大正15年春に学校用地と併合することとし、現在地を枡田与吉、伊藤七三郎両氏から畑地9反歩を金65円で買い受け、これを村有財産とした。
同年7月に間口60間、奥行50間の土地をもって村青年団員を総動員して10月に一期工事を完成した。グランドの命名は青年会長で当時村長であった鴨下典正氏である。
第二期工事は戦後の昭和24年に北陽工業会社が設計し、村費をもって着手し、村内住民が出仕して作業に当たることにした。以後毎年補修を繰り返し体育協会がこれに当たったが、昭和52年7月に自衛隊により本格的な整備が行われ現在に至った。完成後にグランドの管理運営が問題となり議論された結果、
仙法志小学校が管理し、教育委員会が設置責任者となり、体育協会から管理運営が離れた。
山側にある土盛りポン山は小学校児童のミニスキー場として造成されたものである。これは昭和49年6月に自衛隊によって仙法志中学校グランド新設工事の際に余った土をもって造られたものである。

(7) 利尻町立博物館
宗谷管内町村に先駆けて利尻町は博物館の建設計画を立てた。昭和52年7月に教育委員会内に博物館開設のための準備室が設けられ、
資料の収集と建設へむけての構想が順次進められた。また設立準備委員会が組織され、博物館建設にあたっての協議が行われた。
次いで、昭和55年5月に現仙法志中学校の西側の現在地に設置完成し開館した。テーマは「海と人間」を基本に据え博物館活動を展開しているが、平成元年からは自然史担当の職員を増員し、現在は学芸員2名、事務系職員1名の3名の常勤職員が配置されている。
利尻町博物館協議会が開館以来設置され、博物館運営について協議されている。

(8) 仙法志地区教育機関関係協議会
これは仙法志地区内にある教育関係機関である仙法志小学校、仙法志中学校、利尻町公民館、利尻町立博物館、仙法志保育所、日曜学校、スポーツ少年団などで昭和55年6月に組織され発足した。
目的は地区内の児童生徒の校外における各組織者の関係する諸行事等の連絡調整とその諸行事においての生活指導の在り方を研究する事である。毎月一回例会をもち、目的に沿った協議を重ね毎月「教育だより」を発行し、仙法志地区の全家庭に配布している。日曜学校、博物館からの提案により組織されたものである、事務局は小学校と中学校とで交互に受け持たれている。代表は工藤浄真氏が発足以来つとめている。

(9) 明照園日曜学校
この学校は民間施設による児童の社会教育の場として開設された。開校は昭和48年5月5日で生徒32名（小学校児童）が入校し、毎週日曜日に旧保育所園舎と浄土宗専称寺本堂を利用し、通仏教精神に基づく情操教育に重点をおき、生徒の社会性を育てることを目的としたものである。
これは、旧保育所園舎跡を利用し、昭和44年に学童保育を、同45年に子供会に改組した。これを更に発展させるべく変更した経過をもっている。
地区内小中学校、一般の理解者からの個人的な協力者を指導者とし、また、後援会を組織して一体となった運営と教育活動が続けられている。平成4年11月に20周年記念行事を挙行した。
卒業回数20回、卒業生は120名を出した。
当初明照園とした事から代表者を園長と呼び、工藤浄真氏が開園当時からその任にあたっている。後援会は仙法志明照園日曜学校父母後援会と呼び、本町からの会長は初代笠嶋豊蔵、山下敏男、米脇博の各氏で現在は町村孝俊氏が就いている。

17. 福祉関係施設
(1) 仙法志保育所
当保育所は昭和38年5月5日に開設された。
島内では最も遅い開設であった。運営母胎は仙法志地区保育所運営協議会で、地区住民で組織され、その手に委ねられた。当初は、現専称寺を間借りし、昭和43年11月まで若干の増築をし、年間開設された。同年に町移管となり、現在地に独立園舎が新築され今日に至っている。
昭和41年の園児数83名の最多を数えたが、次第に減少し現在数は20名未満である。卒園者からは数多くの保母が誕生し、現在活躍している。歴代所長は町長または民生課長の兼任で今日に至っている。
更には開設と同時に父母後援会、そして父母会が組織されており、保育活動に協力してきた。行事中の運動会は2年前までは独立して実施してきたが、この時より児童生徒及び園児数の減少によ

り、合同で実施されるようになった。
歴代父母の会会長は土田義男氏を初代に、小中俊男氏らがこの地区から出ている。

(2) 老人福祉寮
この寮は昭和58年12月15日、現在地に設置され独居老人を対象とし6人が入寮した。過疎化と共に高年齢化が進行し、独居老人が増加して、その必要性が生じてきたのである。1名の給食婦（兼管理人）を配置し、町社会福祉協議会の所轄になっている。

(3) 仙法志老人寿の家
これは昭和48年12月に老人集会の場が要望され老人クラブ結成と共に、その活動や憩いの場として設置された。経済的な問題を除く維持運営は老人クラブが当たっていた。
昭和63年11月の新公民館の建設によって「寿の家」は解体され、同館内の和室を利用することになった。この間には、体協、本町自治会などの会合の場としても活用された。

18. 行政関係機関
(1) 利尻町役場仙法志支所
支所は現小学校前にあった旧仙法志村庁舎であったが、昭和31年町村合併によって仙法志支所となった。昭和44年12月に新築したが、昭和63年11月、現公民館の新築によって併置してその事務を執っている。
また、仙法志地区内にある公的機関団体のほとんどの事務局が置かれている。
歴代支所長には事務取扱いの中島勝三、下家勇の両氏が代行し、後は表5の通りである。

初代	松本　　巌	昭和32年2月～
2代	長谷川松雄	昭和40年4月～
3代	松本　　巌	昭和42年5月～
4代	長谷川松雄	昭和47年7月～
5代	大島　正治	昭和54年7月～
6代	柴田　喜義	昭和57年4月～
7代	沢谷　　勉	昭和60年4月～
8代	上田　紀宏	昭和63年4月～

表5　仙法志支所歴代支所長

19. 人口の変化
当地区人口同体の推移は常に旧仙法志村総人口全体の38％前後であったが、昭和40年以降は比率が低下し続けて、現在は28％程度である（表6）。しかし戸数の変動はそれほど大きくない。これは核家族化した結果である。

この地区住民の最初の移住年代は、仙法志地区内の各地域とやや同年代で、明治27年以後で、ほとんど鬼脇地区から再移住である。当地区は職業上の関係もあって、転出入の移動が特に大きい。マオヤニの居住者の推移は表7、8の通り。

20. 宗教
(1) 仙法志神社
明治3年に仙法志開拓の祖といわれた伊藤磯八氏が青森県小泊村から来島し、仙法志4番地に漁場を開拓し、そして、明治8年に漁業神として現元村神社の地に、恵比須堂を建立し、「恵比須さん」を祭祀したことがこの神社の起源である。
以後、村社への機運が盛り上がり、明治45年に衆議一決、現在に社殿を新築し遷座したものである。当時の有力者であった平田豊作、種田鶴吉、三上吟一郎、伊藤磯八の各氏の協力により大正10年、更に、社殿社務所を造営した。
当時村長、前田茂氏を筆頭に村社昇格を申請し同11年2月に認可承認されて村社に創立許可されたものである。順次境内外の景観を整備していった。昭和10年頃から、藤野外吉（御崎）、馬渕彦太郎（元村）、西田松次郎、石倉良二（本町）、浜口仁之助（政泊）、竹部文平（神磯）、柴田作五郎（長浜）、平田豊作（久連）の各氏等の有力者をもって総代とし、戦時体制の強化と共に、村民への影響力を大きくしていった。
終戦時より、一宗教団体になったが地域住民の神社に対する信仰意識は現在も戦前同様変わっていない。大正2年9月に忠魂碑を境外地に建立したが、戦後、現在地に移転された。昭和3年11月に政壮組（政泊青年団体）によって御大典紀念碑が建立され、昭和6年には「投石記念碑」を青壮組（マオヤニ青年団体）が寄進建立した。
また、昭和初期に武田精作氏の器具庫、笠谷昌太郎氏の手水舎がそれぞれ寄進された。更に、昭和12年に石倉良二・のぶの両氏夫妻による御影石の鳥居が寄進建立された。社殿の修復工事は昭和30年代に行われている。現在の規模は社殿30坪、社務所22坪、器具庫15坪等で境内地1,741坪あり氏子数は約3百戸になっている。祭典行事は毎年6月21・22日の例大祭が行われ、他に大漁祈願祭、神嘗祭が行われている。歴代宮司は次の通りである。

初代　常盤井武知の兼務　大正11年2月
（日高宇之松助祠官代務）昭和3年まで
2代　常盤井武四郎　　昭和3年9月
3代　常盤井武敏　　昭和5年10月
4代　常盤井武嗣　　昭和42年2月
5代　常盤井武秀兼務　昭和55年～現在

年次	仙法志村		本　町	
	戸数	人口	戸数	人口
明29			97	404
大5	670			
大10	630			
昭10	494	3,035	131	742
昭17	455	2,867	124	676
昭25	526	3,528	142	911
昭30	526	3,492	146	901
昭35	560	3,035	158	793
昭45	477	2,308	152	676
昭57	403	1,222	141	385
昭63	382	1,044		
平2	378	985	135	336

表6　仙法志地区戸口の推移

表7　本町（マオヤニ）居住者の推移

No	明治29年当時の氏名	職業	出身県	大正7年当時の状況
1	浅野浅次郎	漁業	富山県	転出　御崎
2	佐々木長平	漁業	鳥取県	転出　長浜
3	大家　末吉	漁業	福井県	転出　沓形
4	牧野　利七	漁業	秋田県	（同上留守）
5	牧野長五郎	漁業	秋田県	（同上留守）
6	小野　新作	漁業	不　明	なし
7	湯場　亀吉	漁業	岡山県	なし
8	越後　政吉	漁業	秋田県	なし
9	筑山謙太郎	雑貨商	大阪市	転出　政泊
10	山口利三郎	不明	不明	なし
11	佐藤寅三郎	雑貨商	道内	なし
12	宇都宮寅吉	稼業	愛媛県	なし
13	山本市次郎	稼業	愛媛県	山本イト
14	古谷　保作	漁業	山梨県	古谷甫作
15	加藤　岩蔵	理髪業	鳥取県	なし
16	渡部　源助	稼業	愛媛県	なし
17	欠　仁太夫	漁業	福井県	転出　元村
18	和田　嘉七	漁業	不明	和田嘉七
19	北　　庄八	漁業	富山県	なし
20	白川丞太郎	不明	富山県	転出　神磯
21	板坂善左エ門	漁業	石川県	板坂善左エ門
22	平野　久衛	漁業	不明	平野良松・嶺松・武松
23	名畑　秀造	漁業	新潟県	なし
24	古川吉太郎	漁業	新潟県	古川吉太郎
25	中島嘉太郎	漁業	石川県	中島嘉太郎
26	平田藤太郎	漁業	岡山県	なし
27	白川　嘉七	漁業	青森県	なし
28	中松菊次郎	漁業	石川県	なし
29	高橋　慎一	漁業	岡山県	なし
30	今門　八郎	漁業	不明	なし
31	中村三治郎	漁業	不明	なし
32	田中吉太郎	石工	不明	田中米太郎
33	真田勝次郎	漁業	岡山県	真田節男
34	荒木与三郎	漁業	秋田県	転出　長浜
35	山谷万之助	稼業	青森県	なし
36	太田　惣吉	漁業	道内	転出　政泊
37	蔦森　勘助	漁業	岡山県	蔦森六三郎
38	奏　　豊一	仲買業	九州	転出　元村
39	鈴木栄三郎	雇員	東京市	なし
40	若山林之助	漁業	不明	なし
41	木田金次郎	漁業	不明	転出　政泊
42	三宅　長吉	漁業	広島県	なし
43	友田　重蔵	石工	松前	友田重吉
44	高橋与太郎	漁業	石川県	なし
45	枡田　与吉	漁業	福井県	枡田与吉
46	安達市三郎	仲買業	岐阜県	転出　元村
47	西田半次郎	仲買業	大阪市	西田松次郎
48	小野　良一	雑貨業	愛媛県	小野宇多野
49	三上　初一	小売業	不明	なし
50	村上　粂吉	大工	石川県	なし
51	中村　定吉	稼業	鳥取県	中村貞太郎
52	横野　省三	稼業	青森県	転出　神磯
53	小野梅之助	飲食業	秋田県	なし
54	笹谷　金作	漁業	不明	転出
55	大町作次郎	小売業	不明	なし
56	田中由太郎	大工	石川県	田中由太郎
57	沢田与三松	漁業	秋田県	沢田与三松
58	長谷川荘松	小売業	新潟県	長谷川荘松
59	米沢弥三郎	同居人	青森県	なし
60	駒井　直蔵	漁業	青森県	駒井直蔵
61	駒井　万七	漁業	青森県	駒井駒吉
62	長谷川甚作	同居人	不明	なし
63	木谷　イト	稼業	不明	なし
64	川元　要助	漁業	不明	なし
65	佐孝　栄松	漁業	福井県	佐孝栄松
66	佐孝　伍作	回船業	福井県	佐孝伍作
67	田中　藤吉	同居人	不明	なし
68	坂　辰次郎	稼業	福井県	坂　辰次郎
69	森元金太郎	漁業	鳥取県	転出　長浜
70	山谷　義三	漁業	鳥取県	なし
71	坂口喜代松	漁業	鳥取県	転出　長浜
72	国田時次郎	同居人	不明	なし
73	陸西　富蔵	同居人	不明	なし
74	小林　藤吉	仲買業	新潟県	なし
75	工藤　定吉	漁業	不明	なし
76	柴田　惣之	漁業	福井県	転出　御崎
77	乙川　新吉	漁業	新潟県	なし
78	木村幸一郎	稼業	福井県	木村幸一郎
79	須藤　弥七	料理業	宮城県	川村勝見
80	小林庄太郎	稼業	鳥取県	なし

81　高橋佐兵衛　漁業　山形県　なし
82　伊藤　惣七　漁業　弘前市　伊藤惣七
83　栗田　慶吉　湯屋業　不明　なし
84　久保田倉吉　雇人　不明　なし
85　伊藤　磯八　漁業　（青森県）伊藤磯八
86　登藤　長治　漁業　秋田県　なし
87　原田　名七　稼業　秋田県　なし
88　吉村　庄吉　稼業　江差　なし
89　高田　才治　稼業　秋田県　なし
90　伊藤　幸八　漁業　青森県　葛西ハル
91　玉谷仁太郎　稼業　福井県　転出　元村
92　春日与太郎　稼業　福井県　春日仁太郎
93　榊原源之助　稼業　山形県　榊原源之助
94　畑山　平吉　漁業　秋田県　畑山平吉
95　岸田　要造　稼業　熊石　なし
96　岩谷作太郎　稼業　秋田県　なし
97　日比　謙二　仲買業　岐阜県　日比謙二
98　本間　秀治　商買商　新潟県　なし
99　工藤与治郎　漁業　不明　なし
100　岩井惣三郎　（漁業）　富山県　なし
101　丸岡三之助　（漁業）　福井県　転出　御崎
102　中出文太郎　漁業　福井県　転出　久連へ
103　桜井　東助　小売業　不明　なし
104　木保勘治郎　仲買業　福井県　転出　元村
105　志田利喜次　筆耕　熊本県　転出　久連
106　中島与伊太　筆耕　不明　転出　長浜
107　中山　平作　漁業　青森県　なし
108　高橋　長吉　（漁業）　青森県　なし

※注１）（）は未確認の職業。不明は記載なし。
注２）明治29年のマオヤニ居住者は当時の警察官仙法志駐在所の調査によるものである。戸数は97戸で404人になっている。

表８　本町（マオヤニ）の居住者の推移

No	大正7年当時の氏名	職業	出身県	現在	職業
1	加茂　善七	漁業	福井県	転出	なし
2	池端　多吉	漁業	秋田県	池端重一	兼商店
3	伊藤　磯八	漁業	青森県	小樽へ	なし
4	伊藤　惣七	柾屋	青森県	伊藤嘉	漁業
5	吉田吉太郎	漁業	新潟県	元村へ	なし
6	塩山　常七	不明	不明	なし	なし
7	笹原　多吉	漁業	青森県	笹原貞一郎	無
8	原子　孫吉	不明	不明	なし	なし
9	斉藤久之助	（漁業）	（秋田県）	（元村へ）	なし
10	諸沢栄治郎	馬車屋	不明	〈野陣〉	潜水夫
11	野呂田良助	商業	（富山県	沓形へ	なし
12	上木　太市	漁業	福井県	〈上木登記夫〉	無
13	清佐　太吉	板金業	不明	〈土田義男〉	家電商
14	成田　男次	馬車屋	青森県	〈佐孝恵造〉	漁業
15	葛西　ハル	（助産婦）	青森県	伊藤チヨ	無
16	畠山　平吉	漁業	秋田県	畠山敬吉	漁業
17	小谷　金八	不明	不明	〈長田佐久美〉	漁業
18	檜山　亀吉	漁業	秋田県	〈石垣純一〉	郵便局
19	下家　善蔵	漁業	福井県	谷口イミ	無
20	中田　鶴松	漁業	秋田県	松枝正敏	町職員
21	遠藤　宇吉	商業	（新潟県）	転出	なし
22	石田　平蔵	不明	不明	なし	なし
23	小島宇之丞	不明	（富山県）	転出〈茶谷正義〉	木材商
24	木村幸一郎	仲買商	福井県	木村正一	文房具、米店
25	秋山　應治	商業	不明	転出	なし

26	西野　久吉	不明	不明	なし	なし
27	山本　イト	稼業	愛媛県	なし	なし
28	常野　長作	不明	不明	なし	なし
29	宮本　鶴松	石工	不明	〈櫛引淳吉〉	なし
30	田中由太郎	飲食業	石川県	田中由秋	漁業
31	佐孝　友七	回船業	福井県	佐孝友一	漁業
32	佐孝　伍作	回船業	福井県	佐孝友一	漁業
33	砂田弥一郎	運送業	愛媛県	砂田弥二郎	無
34	鈴木　なみ	薬局	不明	なし	なし
35	武田　清作	商業	愛媛県	武田芳親	呉服商
36	坂　辰次郎	稼業	福井県	長浜へ	なし
37	桐田粂太郎	不明	不明	なし	なし
38	古府与太郎	豆腐屋	不明	なし	なし
39	佐藤　清吉	大工	秋田県	〈赤坂良勝〉	なし
40	五ノ治仁之助	漁業	福井県	五ノ治春吉	漁業
41	佐孝　知蔵	漁業	福井県	なし	なし
42	絹谷　松七	不明	不明	なし	なし
43	佐孝　常蔵	漁業	福井県	なし	なし
44	村田徳次郎	不明	不明	なし	なし
45	木田　与助	不明	不明	なし	なし
46	亀谷　猶三	漁業	福井県	亀屋貢	漁業
47	枡田　与作	漁業	福井県	転出	なし
48	佐孝文治郎	馬車屋	福井県	なし	なし
49	小練喜三松	人力車	福井県	小練修次	漁組職員
50	榊原源之助	漁業	山形県	〈八木俊春〉	漁業
51	鈴木幸三郎	役場員	（秋田県）	なし	なし
52	能条　虎松	村役場	千葉県	転出	なし
53	内海勝太郎	漁業	宮城県	〈吉田芳男〉	無
54	松野松太郎	商業	福井県	（井田博）	飲食店
55	今泉　浅吉	不明	不明	なし	なし
56	園家　智證	僧侶	富山県	〈平野繁〉	僧侶
57	富岡　留吉	不明	不明	なし	なし
58	石山　たい	教員	不明	〈井田チエ〉	無
59	三村幸次郎	大工	新潟県	三村トワ	天理教
60	立石吉次郎	役場員	不明	転出	なし
61	三村幸太郎	大工	新潟県	転出	なし
62	渡部　敏郎	医師	福島県	転出	なし
63	竹中末太郎	教員	不明	転出	なし
64	高島　駒蔵	不明	不明	なし	なし
65	松岡　　貞	巡査	（宮城県）	転出	なし
66	伊崎　ユキ	教員	不明	転出	なし
67	新谷新一郎	役場員	福井県	〈片瀬綴〉	漁業兼大工
68	湯浅　　瀞	役場員	不明	転出	なし
69	真壁　軍治	村長	不明	転出	なし
70	後藤　徳治	教員	不明	転出	なし
71	坂元　駒蔵	役場員	福井県	〈岡山勇〉	商店
72	小練惣太郎	商業	福井県	元村へ	なし
73	加藤兼太郎	金物商	石川県	〈宮道義昭〉	商店
74	川口　秀雄	商業	不明	〈七尾美穂子〉	美容師
75	井城常次郎	鮮業	不明	転出	なし

76	山本　由平	不明	転出	なし	なし
77	畠中　駒吉	商店	不明	〈三盃良勝〉	漁組参事
78	成田愛之助	大工	青森県	転出	なし
79	中川原省三	商業	滋賀県	中川原捨三	呉服商
80	長谷川荘松	商業	新潟県	長谷川チコ	旅館
81	松野惣三郎	商業	福井県	〈井田博〉	飲食店
82	西尾　　正	商業	大阪市	（郵便局）	鬼脇
83	駒井倉次郎	漁業	青森県	駒井直行	漁業
84	駒井　直蔵	漁業	青森県	転出	なし
85	中村貞太郎	菓子商	鳥取県	（野本昭二）	米店
86	三上吟一郎	商業	京都府	〈佐孝忠男〉	小荷物運送
87	山脇松之助	商業	滋賀県	出ツ所増三	荒物店
88	寺井　元吉	不明	岩手県	なし	なし
89	佐孝　栄松	旅館業	福井県	佐孝正雄	漁業
90	枡田　与吉	漁業	福井県	〈高橋道三〉	漁業
91	西野仁一郎	漁業	福井県	転出	なし
92	石倉　良二	郵便局	富山県	石倉真一	郵便局長
93	秋田竹次郎	料理店	不明	（秋田家）	なし・
94	能登　亀吉	商業	大阪市	〈中島澄子〉	福祉寮管理人
95	小野宇多野	商業	秋田県	〈中村鉄也〉	漁業土木運転手
96	菅野惣四郎	馬車屋	大阪府	〈倉庫〉	なし
97	三島三之助	飲食業	不明	なし	なし
98	友田　重吉	石工	松前	〈山下〉	なし
99	日比　謙二	商業	岐阜県	〈藤井幸男〉	土木作業員
100	田中米太郎	菓子商	不明	なし	なし
101	中市左衛門	金物商	石川県	〈原崎保〉	無
102	春日仁太郎	飲食業	福井県	なし	なし
103	木谷常太郎	商業	富山県	〈原崎竹治〉	商店
104	大島　ツナ	商業	石川県	大島隆一	建設業
105	金子　民平	大工	不明	なし	なし
106	西田松次郎	仲買業	大阪府	〈蔦森ミネ〉	無
107	本田文次郎	不明	不明	なし	なし
108	中宮銅太郎	不明	不明	なし	なし
109	沢田与三松	漁業	秋田県	沢田誠一	漁業
110	桔梗　金助	役場員	（宮城県）	〈倉庫〉	なし
111	小林　末吉	大工	不明	なし	なし
112	島野　寅松	商業	石川県	島野正一	漁業兼大工
113	蔦森六三郎	漁業	岡山県	蔦森勝	漁業
114	古川吉太郎	漁業	新潟県	政泊へ	漁業
115	円居　初市	商業	不明	なし	なし
116	八幡　外蔵	漁業	福井県	なし	なし
117	会沢留次郎	漁業	青森県	〈蔦森勝〉	漁業
118	駒井　駒吉	漁業	青森県	〈米脇博〉	漁業職員
119	小中　新吉	漁業	石川県	小中利男	郵便局
120	上田　石松	仲買商	大阪府	上田紀宏	町職員
121	高橋道太郎	馬車屋	新潟県	高橋道司	漁業
122	中島嘉太郎	金物商	石川県	札幌へ	なし
123	中村　亀吉	馬車屋	青森県	中村章	漁業
124	伝野四五六	鉛商	不明	沓形へ	なし
125	斉藤　慶蔵	不明	不明	なし	なし

126	室　大吉	郵便局	函館	なし	なし
127	板坂善左エ門	漁業	石川県	板坂フミエ	無
128	茶谷　末吉	漁業	福井県	転出	なし
129	峨家栄太郎	漁業	福井県	峨家勝一	水産業
130	古屋　甫作	漁業	山梨県	久連へ	漁業
131	二ノ宮片治	不明	不明	なし	なし
132	松田源一郎	不明	不明	なし	なし
133	加藤　清治	不明	（秋田県）	なし	なし
134	小川伝次郎	漁業	宮城県	空き家	なし
135	能登　藤吉	漁業	秋田県	能登タケ	無
136	北沢寅五郎	漁業	石川県	長浜へ	なし
137	植木岩次郎	漁業	石川県	空き家	なし
138	日高　市松	商業	（大阪府）	政泊へ	なし
139	野本八治郎	漁業	新潟県	野本昭二	米店兼漁業
140	和田　嘉七	漁業	不明	なし	なし
141	川村　勝見	料理業	宮城県	転出	なし
142	真田　節男	漁業	岡山県	転出	なし
143	山崎権次郎	（漁業）	不明	なし	なし
144	新谷猪佐久	料理業	福井県	長浜へ	なし
145	鷲　亀次郎	不明	不明	なし	なし
146	寺田　理三	不明	不明	なし	なし
147	米田三太郎	不明	不明	なし	なし
148	佐々木兼蔵	教員	不明	転出	なし
149	山田　政信	教員	不明	転出	なし
150	長谷川直松	馬車屋	新潟県	〈田原京〉	無
151	鈴木　茂治	漁業	不明	なし	なし
152	池田源次郎	石工	不明	なし	なし
153	伊藤福太郎	漁業	石川県	転出	なし
154	角　玄鏡	僧侶	不明	古川宥法	僧侶
155	越後谷源蔵	役場員	不明	転出	なし

※注１）〈〉は買い受けての入居者か、その市周辺の家の入居の居住者をあらわす。
　注２）現在実戸数とは必ずしも一致しない。

（2）諸派神道

天理教仙法志分教会

当地における「宣教所設置願書」は大正12年６月に布教者及び設置者は三村レイの氏名をもって提出されているが、実質的な布教開始はこれより以前である。設置許可は同13年８月１日で神殿が造立されている。この時の信徒総代は沢田吉松氏になっている。

建造物の改修工事は何度か行われているが、所在地は当初より現在地であった。東側は小学校道路に接し、消防分遣所があり、北側には西円寺があって周辺は民家である。現在の規模は神殿その他建造物合わせて面積66坪、敷地96坪、信徒５、信者不特定多数である。祭礼日は１月・７月・10月の各６日になっている。教会の歴代主管者は次の通りである。

初代　三村レイ　　大正13年８月
２代　三村トワ　　昭和29年３月

（3）仏教寺院

（イ）真宗大谷派　保友山西円寺

明治32年に岐阜県より池田円城師が来島し、布教したことに始まっている。（しかし、これよ以前に藤谷清城師が開教して説教所を設立したとある。従って創始の年代はこれよりも若干早いものと考えられる）

池田師はこの地に４年間滞在して、一寺建立の基礎を固めたものと考えてよい。「説教所管管理願」には説教所所在地が仙法志マサンドマリ番外地（専称寺裏）にあった。そして、この「願」には信徒総代に西田松次郎、木保勘次郎、道間末吉の各氏によって、明治36年９月16日に連名提出

されている。「一寺建立願」には上記総代前者2名の他に、中島嘉太郎氏が交替し、「公称願」には津田又七氏が加わり、現在地に同38年12月に堂宇が建立された。

住職は園家智証師となり、寺号公称許可は同39年7月になっている。当寺院は当村の中心市街地に所在し、立地条件に恵まれている関係から、公的な場として文化活動の場としても提供し活用された。また、戦時中一時季節託児所を開設した。

昭和16年に本堂庫裡の改修工事と新書院新築し昭和57年10月の台風災害による本堂再改修工事を行ない、昭和55年に庫裡を改築、書院を解体している。平成3年新住居を建立した。

納骨堂は昭和58年頃に本堂に隣接して新築し、昭和40年代に本堂西脇にあった小納骨堂は取り壊され、本堂内に移設した。

現在の規模は本堂93坪、庫裡約40坪、納骨堂12坪、住宅22坪である。境内地面積は739坪で、東側は教員住宅で北側は道々と接して、小学校、神社があり、西側は墓地になっており、浜側は道路に沿って民家がある。門徒数は約70戸である。

歴代住職は次の通りである。

初代	園家智証	明治37年12月
2代	藤田了弁	大正13年
3代	竹田哲彦	昭和16年7月
4代	桂　担蓮	昭和33年7月
5代	桂　義見	平成2年4月

(平成5年4月より平野繁氏僧籍編入居住している)

境内に山下菊太郎氏寄進の「聖徳太子碑」があり、昭和5年8月の建立である。

(ロ) 曹洞宗円通山広鏡寺

明治33年に鬼脇の大沢寺住職広沢覚道氏の弟子角玄鏡氏が来村し、現博物館の地に草庵を結び布教活動を開始した。明治41年に小山内雄太郎、田中三蔵の各氏等と協議の上、現在地に一寺を建立した。寺号公称許可は大正5年6月2日である。昭和2年頃に龍神堂（4坪）の寄進を受け建立した。

昭和45年に本堂の修築工事を行い、平成2年に庫裡を改新築した。納骨堂は昭和55年に建築した。年間行事としての法要は、2月涅槃会、6月魚鱗供養、8月盆地餓鬼会、10月成道会がある。この他に毎年4月の龍神講がある。以前に観音講などもあって御詠歌も盛んであった。規模は本堂36坪、庫裡49坪、納骨堂12坪、境内恥713坪あり檀家数約60戸である。境内地に無縁仏供養の地蔵菩薩が建立されている。歴代住職は次の通りとなっている。

初代開山	角　玄鏡	大正4年10月
2代	角　玄龍	昭和8年1月
3代	広沢義道	昭和26年6月
4代	古川宥法	昭和52年～現在

なお、同寺院の東側は火葬場道路をはさんで民間畑地から公営住宅棟、背後は福祉寮、道々と並んで博物館、中学校、西側は原野、浜側は離れて民家、そして海を望む。また、100m程の南西に専称寺がある。

(ハ) 浄土宗大雄山専称寺

明治3年来島した伊藤磯八氏が明治33年に持仏堂を創建したことに始まる。以後、幾多の変遷を経て、大正4年12月に堂宇の建立をした。

開教に当たった平松静円師は伊藤磯八、種田鶴吉、長谷川荘松、今井和助の各氏等と協議し、現在地に建立したもので、寺号公称許可は、同9年7月である。

創立以来多くの変遷を繰り返したが、工事関係では、昭和51年8月に納骨堂を新築し、同53年に庫裡の改修工事を、同57年10月台風災害工事で本堂屋根の修復を計り、同59年5月の本堂改修工事、61年12月の鐘楼の建立、平成2年7月童地蔵が建立された。昭和38年5月より同43年10月まで保育所を開設し、同48年より日曜学校を開設した。

檀徒の集まりである浄友会が昭和59年組織された。昭和61年6月には創立70周年記念行事を執行し、平成元年に本堂内仏具類を整備した。規模は本堂45坪、庫裡約50坪納骨堂13坪、住宅20坪、鐘楼、童地蔵で、檀徒数は約70戸を数え、境内地967坪である。境内に70周年記念碑がある。

年間行事は、3月の御忌並びに彼岸会、6月の魚鱗供養会、8月の盆地餓鬼会、10月の十夜法要、12月の除夜の鐘、毎月20日浄友会例会がある。歴代住職は次の通りになっている。

初代	平松静円	大正4年5月
2代	長尾亮導	大正10年12月
3代	井上玄隆	大正12年8月
4代	秋本行哲	昭和7年8月
5代	大高源照	昭和9年4月
6代	工藤淳亮	昭和17年5月
7代	工藤浄真	昭和33年10月

(ニ) 共同墓地及び火葬場

旧仙法志村開拓時より、政泊の一部と本町住民の共同墓地、及び火葬場は現中学校と博物館の裏50m程の地点に設置された。

墓地は近年各自の檀那寺の境内墓地に移転させる人が多くなり、その墓碑の数は減少しつつある。林に囲まれた広面積で墓地としての規模は大きく

環境も良い。

火葬場はこの墓地の南端にあったが老朽化した。しかし、平成4年9月に一町一火葬場となり廃止された。

21. 地域の特色

この地域は漁業を営み、商人、公務員など広範囲にわたる職種の人々の住むことから、その生活意識及び感情が異なり、生活様式も異なっている。従って共通意識をもつという点では、やや困難な場合もある。

更に、過疎化減少による高年齢化、独居老人の増加による各年齢層の人口比率のアンバランス化が進み、次第に社会構成上から不安定な状況が心配される。

この地区の住民の職業別人口をみると、公務員及び関係する者41％、漁業23％、商業13％、無職（老人を含む）20％、その他3％となっており、明治29年当時在住者で今日現在の永住者は20％に過ぎない。また、この地区の20～60代の人口の割合は（教職員を除く）全体の約21％に過ぎない。

22. その他

風俗習慣はその職業によって異なるものと各年齢層によるものなどがあって一様ではないが、若年層による意識の変化によって打破されつつあって平均化されつつある。しかし、漁業者は古くから言い伝え、諺、縁起を信ずる傾向が強い。

宗教施設、即ち、神社仏閣に関心また、教育に対する関心は所在する身近な問題として、他地区に比較して若干高いものがある。

終わりにあたって

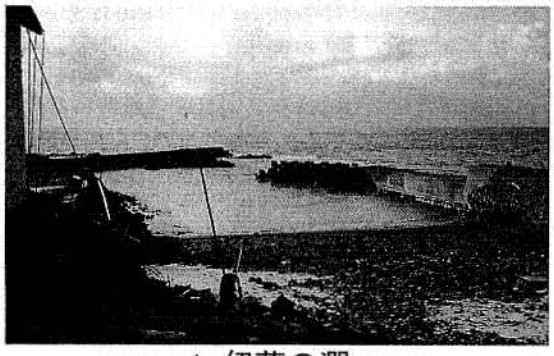
まだ未了部分は次の何かの機会に延べたい。以上の報告については資料不足などで不明点が多かったが、随時訂正してゆきたい。

この調査に協力して下さった方々に厚く御礼を申し上げます。

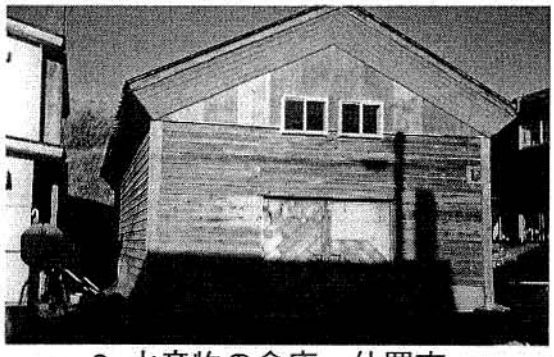
故駒井重蔵、高橋道司、上木栄蔵、宝達辰雄、原崎保、大島隆一、峨家勝一の各氏。

参考文献資料

旧仙法志村古文書、社寺明細帳（以上博物館及び町史編集室所蔵）

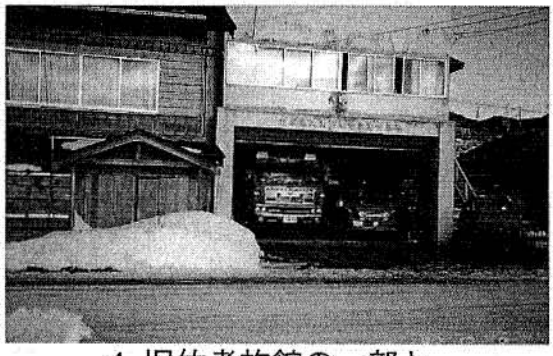


1. 伊藤の澗

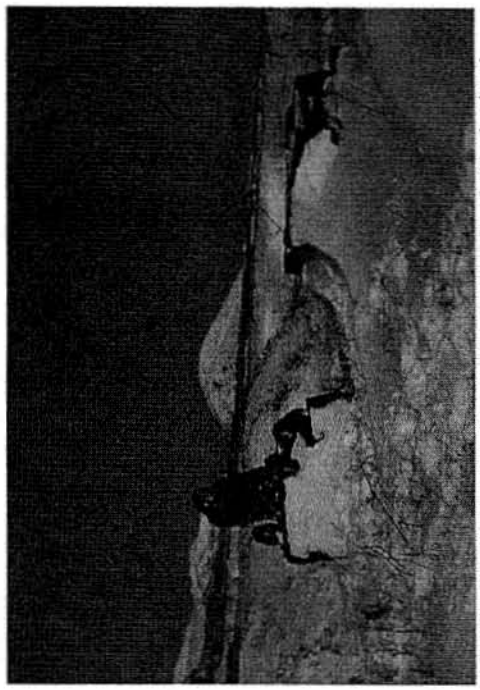


3. 水産物の倉庫、仲買商
西田氏の所有

2. 前からの伊藤漁場の建物

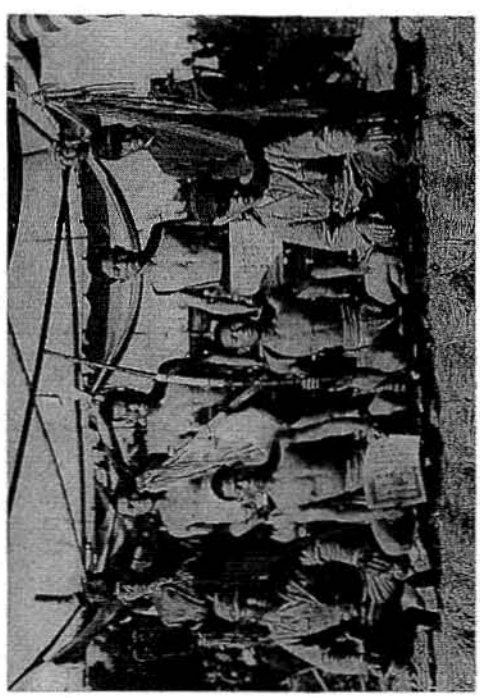


4. 旧佐孝旅館の一部と
旧消防分遣所

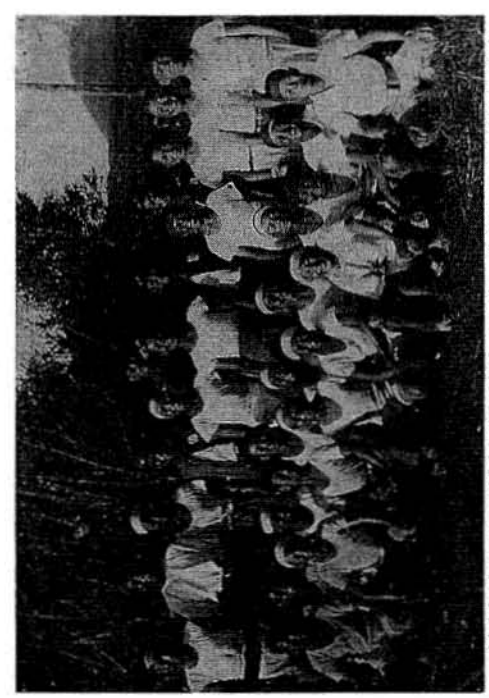


7. 伊藤磯八氏の漁業神と祭った恵比寿堂跡（右）と庚申塔（左）

8. 例祭典中の仙法志神社

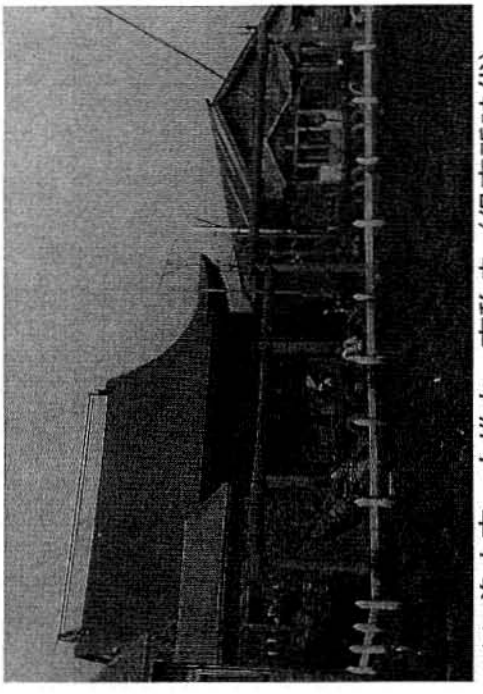


5. 祭典奉納青年団相撲大会、団長沢田正道氏



6. 仙法志国民学校運動会記念（昭和20年7月）

9. 真宗大谷派　保友山　西円寺



11. 浄土宗　大雄山　専称寺（保育所時代）

10. 曹洞宗　円通山　広鏡寺

12. 本町（マオヤニ）東側から見る現市街地